

## 知事コメント

新名神高速道路の三重県区間全線開通、いなべ市初の高速道路となる東海環状自動車道大安IC～東員ICの開通から1年が経過し、開通効果については、沿線住民の皆さんや沿線に立地する企業の経営者の方々などから、様々な場面でたくさんの声をお聞きしていましたが、このたび、渋滞や事故の減少、新規企業の立地、観光入込客の増加等、目に見える形となって発表されたことを非常にうれしく感じています。

例えば、新名神高速道路新四日市JCT～亀山西JCTの開通前は、東名阪自動車道における連日の渋滞発生により、「東名阪が渋滞するから三重県には遊びに行かない。」との声が聞かれていましたが、これら区間の開通が本県を訪れるきっかけとなり、平成から令和への改元や熊野古道世界遺産15周年というタイミングも相まって、本県の観光客増加に大きく寄与したものと高く評価しています。

また、企業立地においては、開通した沿線で製造業を中心に立地が進んだだけでなく、沿線以外でも「渋滞の減少が見込まれる東名阪道を高く評価して進出を決めた。」という声を聞いており、開通効果の大きさを改めて実感しました。

平成の30年間をかけて整備が進められた新名神高速道路と、整備が進む東海環状自動車道が、本県産業のさらなる発展や近年激甚化する災害への備えの礎となって、令和の時代の三重県を支え続けていくものと確信しています。

三重県では、来年の「三重とこわか国体・とこわか大会」を皮切りに、令和7（2025）年からはじまる第63回式年遷宮関連行事、令和9（2027）年のリニア中央新幹線品川～名古屋間の開業など、今後も大きなチャンスが続きます。

引き続き、全線開通見通しが令和8（2026）年度と示された東海環状自動車道の1日も早い開通を目指し、整備促進にしっかりと取り組んでまいります。

令和2年4月7日

三重県知事 鈴木英敬